

事業名 CD	0110060102	社会教育体制整備推進事業
細分化した事業名		美術館管理運営事業
事業担当課室 CD		教育課
		整理コード

〈事務事業の位置づけ〉

第6次長期総合計画での目的体系	大項目	魅力あふれるまちづくり	
	中項目	次代へつなぐ歴史・文化の醸成	
	小項目	文化・芸術の振興	
関連する個別計画等		根拠条例等	葦崎大村美術館条例
関連する事業			

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	・美術館の維持管理を適切に実施し、来館者が快適かつ安全に利用できるようにする。・優れた美術作品を展示公開し、市民の美術に対する理解を深め、芸術文化の振興を図る。
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	市民及び市内外の美術愛好家
これまでの改善経過	平成19年10月葦崎市名誉市民大村智氏が40年来収集した絵画や陶磁器等を展示する美術館として開館。その後、大村氏より美術館の土地、建物、美術作品約1,000点の寄付を受け、平成20年10月市立葦崎大村美術館として開館。女性作家の作品を中心とすることで館の特色を出している。美術館協議会の設置。美術館ボランティア42名の委嘱。
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	〈実施・運営方法〉 ■市 □委託 ■補助金 □その他 ( ) 第1展示室では上村松園、片岡球子、小倉遊亀等文化勲章作家など既に高い評価を得ている作家の作品を常時展示すると共にテーマに従って企画展を開催。第2展示室では、色彩の画家といわれ、文化功労者にも顕彰された鈴木信太郎の作品を展示。喫茶室を兼ねた第3展示室では、人間国宝の岡島達三や民芸運動作家のバーナード・リーチなどの陶器や山梨県ゆかりの作家の作品を展示。又同室からは富士山をはじめハヶ岳や茅ヶ岳、奥秩父連峰の山々を望むことができる。学芸員が必要に応じて、作品の説明や鑑賞のポイントを解説している。年4回の企画展を開催。
事業の成果 (どのような状態にしたのか) (どのような効果を得るのか)	質・量共に優れた美術館収蔵作品を、身近で気軽に鑑賞することにより、美術に対する知識や理解を深めることができ、市民一人ひとりの文化意識の向上により、本市全体の文化の向上が期待できる。文化の香り豊かな葦崎市の形成に寄与する。

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		20年度	21年度	22年度
A	事業費 (千円)	8,812	38,549	15,976
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	市債			
	その他	2,343	3,424	2,279
	一般財源	6,469	35,125	13,697
B	担当職員数(非常勤 職員E) (人)	1.00 0.90	1.00 0.90	1.00 0.90
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	6,218	6,141	6,048
D	総事業費(A+C) (千円)	15,030	44,690	22,024
*参考	H22)市民1人当りの事業コスト	688 円	H22)市民1人当りの行政サービス費用	599,027 円

注1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。

注2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、20年度(6,909千円)、21年度(6,823千円)、22年度(6,719千円)を使用しています。

注3)一般財源とは用途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分りやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			20年度	21年度	22年度
活動指標	企画展実施回数	(回)	2	3	4
	入館者数	(人)	5,483	10,543	7,757
	開館日数	(日)	152	294	303
	延べ展示作品数	(点)	400	400	450
	延べボランティア活動人数	(人)	72	651	347
成果指標	1日当りの入館者数	入館者数/開館日数(人)(7,757人/303日)	36	36	26
	1回の企画展における展示作品数	延べ展示作品数/企画展実施回数(450点/4回)	200.00	133.33	112.5
効率指標	入館者1人当りの経費	総事業費/入館者数(円)(22,024千円/7,757人)	2,741	4,239	2,840

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input checked="" type="checkbox"/> A 妥当である <input type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない 女性の文化勲章作家の作品や文化功労者として顕彰された作家の作品を数多く常設展示し、また、幅広い年代層、多彩な技法による作品を季節等テーマに沿って展示しているため、優れた作品を身近で鑑賞することができる。学識経験豊かな協議会委員の意見を取り入れ、また、ボランティアの協力を得て、市民と協働の運営に心がけている。		
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない 1日平均26名が訪れ、美術作品を楽しんでいる。学芸員の説明を聞きながら、作品に対する理解を深めている。		
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input type="checkbox"/> A 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C 効率的でない 学芸部分(常設展・企画展)は非常勤の学芸員が対応し、建物の管理等は職員及び外部委託で運営。今後、更に効率的な運営を図っていく。		
総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成		
今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 重点化(コストを集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 手段の改善(実施主体や実施の手段を代える) <input checked="" type="checkbox"/> 効率化(結果単位あたりのコストを下げる) <input type="checkbox"/> 簡素化(事業の規模や内容を縮小する) <input type="checkbox"/> 統廃合(他の事業と統合する、または廃止する) <input type="checkbox"/> 現行どおり		
改善・改革案	改善・改革の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか)		
	(1) 中長期的 収蔵庫・研修室等を増設し、市民が自主的に活動できる場の提供や育成事業等の充実を図る。指定管理者による管理運営も視野に検討する。	(2) 24年度 企画展開催回数及び内容の検討 分館入館者へのPR	(3) 23年度 育成事業の充実を図る。 市民交流センターに設置された分館展示作品から美術館のPR発信を強化し、美術館入館者増を図る。
	22年度の改善計画 現行のとおり		
22年度の改善結果 来館者用及び美術館運営に必須である図録等書籍資料整理のための書棚を設置し館内整備を実施。			
市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること) 美術館協議会の意見を参考に企画展や育成事業を開催。ボランティア組織を充実し、館内監視や図書及び美術館資料の整理等の活動に参加を得ることにより美術館への理解とPR活動への理解が得られる。			
課長所見	ボランティア会員の協力を頂き、効率的な運営を目指し、市民の憩いの場としての美術館になるように努める。		